

石田

僕も、普段からいろんなことに興味や問題意識を持っていることが大切だと思います。新聞を読んでいて分からないことが出てきたらウィキペディアで調べるとか、新書を読むとか、日々の心がけが重要だと思います。

法律科目は結論の暗記よりもプロセスの理解**五十嵐**

では次に、法律科目の択一試験は膨大な知識が必要で大変だったでしょうが、どのように対処しましたか。

岩宮

僕は行政法が苦手だったのですが、基本書判例読み込み講座で伸びました。それまでは理解できないまま覚えていて定着しなかったのですが、この講座で判例を素材に考える訓練を積んだことで、理解が格段に進み、問題も解けるようになりました。

石田

僕も独学でやっていたときは過去問をただ回すだけだったのですが、それでは表面的にしか頭に入らず、別の出され方をすると解けません。今年は基本書判例読み込み講座のおかげで、同じ過去問を解くのもひとつひとつの選択肢を納得いくまで検討するようになり、正答率が上がりました。

山崎

私にも経験がありますが、闇雲に問題集を回すだけでは答えを覚えてしまっても結局だめなんですよ。

岩宮

結論だけを覚えるのではなく、「何でこうなるのか」を考えて覚えることが肝心なんです。(一同うなずく)

井澤

僕は大学でやっていなかった民法で苦労しました。分からないところは必ず先生に聞きに行くことにしました。他の予備校では書面で質問して回答をもらうところもあるようですが、そのやりかただと僕なら絶対に分からなかったと思います。直接1対1で何十分もかけて説明を受けることができたので、喜治塾でほんとうに良かったです。

永倉

私は法学部なのですが、五十嵐先生の講義ではじめて深く民法が分かるようになりました。授業中に当てられるのは恐怖だったのですが(笑)、そのおかげで自然と講義に集中し、考える姿勢も身に付いたと思います。その意味で私にとって民法の講義は「神」でした!(笑)

総合試験は塾の講座で「決まった!」**五十嵐**

次に、国Ⅰで一番配点の高い論文試験についてお聞きます。まず総合試験(教養論文)はどのように対策しましたでしょうか。

渋谷

基本的な論文の書き方は論文道場を受けて身につけました。国Ⅰ特



有の傾向に関しては、直前の対策講義で過去問を分析して把握し、試験委員関係の本を何冊か読みました。おかげで本番でも楽しく書きました。

岩宮

僕は中学時代から作文が苦手だったので、まず論文道場で論文の型を身につけました。でも国Ⅰでは内容も重要なので、コミュニケーション道場を受けた時に先生から勧められた3冊の専門書を読み、それがすべての自信につながりました。本番の問題はそこから出て、「やった!」という感じでした。それ以外にも、新聞の社説を切り抜き感想を書き留めておくという作業を実践し、自分なりの問題意識を磨くことができて良かったです。

井澤

2次試験の当日の昼、総合試験の後で山崎さんとトイレで会って話したのですが、「五十嵐先生は神ではないか」と(一同笑)。本当に対策講座でやったことがそのまま使えました。

専門論文で生きた、当てて考えさせる授業**五十嵐**

専門論文は難解で複雑な事例問題が出ます。皆さんはどのように対処したでしょうか?

山崎

行政法の問題は今年は会話形式で多くの人が戸惑ったと思うのですが、私にとっては判例読み込み講座の授業風景と同じでした。文中で「なんで?」と聞いてくる司会者が塾長に思えたので(笑)、問題文がすんなり頭に入って解きやすかったです。

石田

やはり国Ⅰの論文は深いところまで理解していないとまったくできないと思います。当てられて深く考える練習を授業で経験していたので、それがそのまま出たという感じです。

山崎

民法でも典型的でない問題が出ましたが、基本から考える姿勢を授業で教わっていたので、落ち着いて考えて解くことができました。

岩宮

試験中、思い出す作業はしなかったですね。その場で考える、論理を組み立てるという作業が中心でした。

永倉

私も講義で当てられて考える作業をやっていたから解けたのだと思います。

井澤

民法は苦手だったのですが、講義でもらった論点・要件・効果のプリントだけはマスターしようと思い、何度も繰り返しました。それが考える際の武器になりました。

石田

論文では科目ごとに型を作るのが重要なんじゃないかと思いますが、民法ではまず請求内容を考えて、要件・効果を検討していく思考、憲法では1条から順番にあてはめていく方法を教わっていたので、実際の試験でもそれを使いました。それで論点落としもなくなります。

山崎

行政法は塩野先生の教科書の目次を覚えるように言われていて、本番でもその目次に従って考えるようにしていました。

